

褐斑病の発生が確認されました。発生圃場では発病葉を摘葉後、直ちに薬剤防除を実施してください。

現在の状況

- 1 通常7月下旬から発生するが、6月が高温で降雨が多いと発生時期が早まる。
- 2 7月上旬の巡回調査において、平年より早く初発が確認され、発病程度も高かった（図1）。
- 3 向こう1か月（7月11日～8月10日）の降水量は平年並か多い予報であり、発生の増加が懸念される。

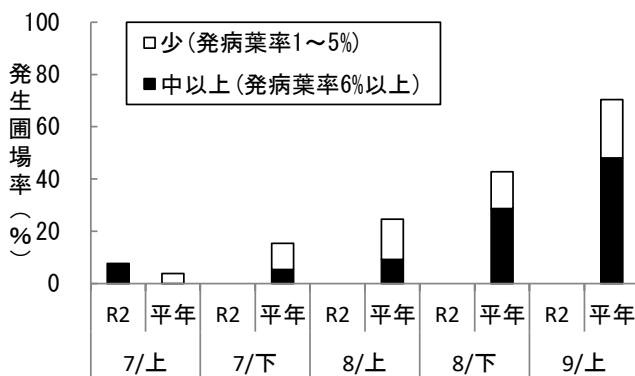


図1 褐斑病の年次別発生推移（7月上旬）



図2 褐斑病の病斑

※病斑が少ないうちに積極的に摘葉すること

防除対策

- 1 現在発生が見られなくても予防散布に努め、アーチ両側から十分量を丁寧に散布する。
- 2 発病を確認したら、**初期の発病葉（図2）を摘葉後、直ちに効果の高い薬剤を散布する。**
- 3 発病葉を残すと、病斑部から多量の胞子が落下し、発病葉直下では生長点や新展開葉で発病して早期枯れ上がりの原因となるため、発病初期の摘葉を徹底する。
- 4 QoI剤、SDHI剤は、耐性菌の発生リスクが高いため年2回以内の使用とする。使用する場合は連用としないようにし、止め散布には使用しない。

☆農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）☆

【利用上の注意】

- ・本資料は、令和2年7月8日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆病害虫防除に関する情報は、いわてアグリベンチャーネット

<https://i-agrinet/Index/gate003> からご覧いただけます。